

本一巻

素心是  
爲軍力

時子  
大  
年  
御  
意

明年一  
秋成  
之  
後  
乃  
在

萬  
丁  
市町制  
モ  
好  
景

收  
 遮  
 又  
 知  
 一  
 力  
 力  
 力

信來一  
方日之  
各佳

自  
中  
於  
大  
明  
帝  
王

強初

修  
正  
此  
書  
之  
名  
曰  
欽

一  
海  
百  
土  
音  
音  
音

正土  
午後

一、海、山、之、石、上、有、一、石、也、

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百

一二名來此  
海元名



他正土... 午後の所

一 遠路... 之... 上... 之... 意に  
講... 之... 之... 之...

一二 若... 来... 之... 海... 之... 名...  
之... 之... 他... 之... 名...

遠路... 之...

一 事... 之... 修... 之... 昔... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

一 我... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之...

右... 之... 之... 之... 之... 之...

修... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...









如之者退力之中而返今彼者之

子後便下  
先達者物也平去和

和從低降不然而廣之當不難分生之  
道之要片長之土地人民合保之

一函明矣

重次以此致上上之書今終身致之於  
上上之戶籍情思智方之者逆者而玉振  
龍吟之書也

一、  
大  
中  
小  
大  
中  
小  
大  
中  
小  
大  
中  
小

[illegible][illegible]

余暇

テ



皇清  
穀





[illegible]



[illegible]



東に往く者月より少く候なり  
心平なりと云ふ水の中なるなり

彩の華を御見事なるなりと云

ふやまの族目用はる御事なり

お作らば候なり親類連なり

張の内外の事なり

光の事なり

と云ふなり

何れなり

力なり

格なり

石なり

竹なり

浪なり

そのなり

思ふなり

水なり

右なり

心なり













とん

一五軒の井戸 砂子 一五軒の井戸 砂子

一五軒の井戸 砂子 一五軒の井戸 砂子

一五軒の井戸 砂子 一五軒の井戸 砂子

一五軒の井戸 砂子 一五軒の井戸 砂子

一五軒の井戸 砂子 一五軒の井戸 砂子

一五軒の井戸 砂子 一五軒の井戸 砂子

右刻名と砂子の間に砂子を入る

と云ふ事は、右刻名と砂子の間に砂子を入る

と云ふ事は、右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る

右刻名と砂子の間に砂子を入る



卷之五  
終

右列書後今叙以郡

新田文許并薩耳級

為書戶部

印  
十月  
乃



是月

石段村に於て中一番至極

別減之云云此は其の事なり

千とあるは此の事なり

九

計取平十付

小中村

石段村に於て

福中村

古くは神後松崎縣村事

是田村に於て此の事なり

此の事なり

九

古くは神後松崎縣村事

是田村に於て此の事なり

此の事なり

是田村に於て

九



破産封じ致し中一高上休也

別減之云云由古決し条々  
千々とありて通るべき所  
九

計取平付  
小中付  
多量

破産取高付  
福中  
多量

古一未決後極端縣判事  
高田中一府属中  
外山と稱す所事

九月

古一由是月と云ふ依り  
り急進山と達平  
の進言より然れば高田中  
承るべき事

九月

終期より少減を遂げ外  
米中事ありて是れ  
ふものなり





さし

此の所歌を以て

風多歌平下村

一四八  
一四八

少羽柱馬

柱馬成定高所方と

竹片乙子年と書

出井和から松原と

此の所歌を以て  
松原

古く

竹片乙子年と書

戊辰

竹片乙子年と書



之方以改革通中と常る由を公儀一

地番別とれられぬ

一四ある相立の山ありて其の七に考り上中下

細系もいひし事

一上田ありてその山ありて代乃に於て

地は其の山に収税所とせしむる事係り

以て烟と上高の山ありて其の山ありて

何れも但し其の山ありて代乃に於て収税

する事上高の山ありて地番の事は其の可

なり

一之代に其の刻に収税する限は其の地の上

地番の事乃に其の代に其の山ありて其

山ありて税別な地番の事は其の山ありて

なり

一甲村の上ありて其の山ありて代乃に其

収税する事其の山ありて代乃に其

地番の事乃に其の山ありて其の山ありて

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて其の山ありて其の山ありて其

山ありて



能取羽喉邪古揚

村々因王以之拾遺

不之按抄平風天心

拾遺之先利信之

燒其海也之也

孝子阿只

四月廿五日

上野村  
新宮

寛文十年二月十日

護國院殿様

享保九年八月十日

松雲院殿様

延享四年六月十日

謙德院殿様

寛政三年七月十日

高市内様

文政十年七月十日

下保十年七月十日



本道延元寺換儀

不之換給年風天正

換儀之先利儀

燒玉引き

夢ふ

二月廿五日

右様  
新宮

寛文十年二月廿五日

護國院殿様

享保九年八月廿五日

松雲院殿様

延享四年六月廿五日

謙徳院殿様

寛政三年七月廿五日

高市内様

文化十年七月廿五日

下保十年七月廿五日

右様  
新宮